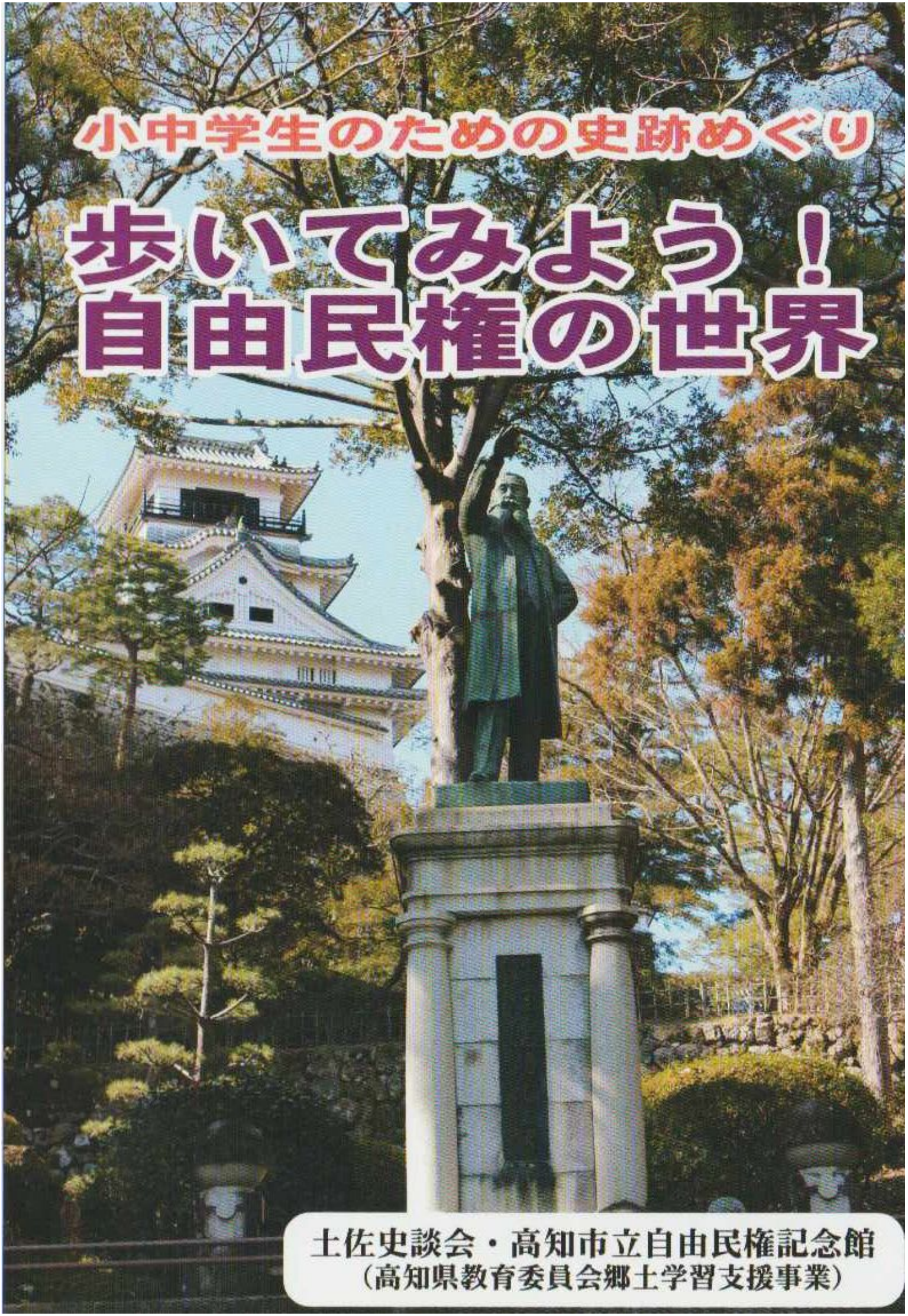
小中学生のための史跡めぐり

歩いてみよう！自由民権の世界



土佐史談会・高知市立自由民権記念館
（高知県教育委員会郷土学習支援事業）

片岡健吉銅像

片岡健吉は、天保14（1843）年、土佐藩の上級武士の家に生まれました。戊辰戦争で功績があり、明治のはじめにイギリスへ留学。明治７（1874）年立志社社長に選ばれ、同10年国会開設、言論の自由、租税の軽減、地方自治の確立、不平等条約改正を求める「立志社建白書」を提出するなど、２度の投獄にも屈せず、自由民権運動の先頭にたちました。

高知県議会の正面玄関横に銅像があるのは、明治12（1879）年、初代高知県会議長に選ばれたからです。第１回総選挙で衆議院議員に当選。第7～10代議長をつとめました。

強い信念と勇気の持ち主で、温厚誠実な人柄がつねに人々の尊敬を集め、高知新聞社長、高知教会長老、同志社社長など数々の役職を歴任しました。衆議院議長在職中、明治36（1903）年に60歳の生涯を閉じました。

板垣退助生誕地

「板垣死すとも自由は死せず」。自由民権運動の指導者・板垣退助は、天保８（1837）年、土佐藩馬廻格・乾栄六の長男に生まれました。幼名は乾猪之助、東征軍参謀として江戸進軍の途中、岐阜県大垣で「板垣」姓に改めました。子どもの頃は、上級武士の子弟がつくった「盛組」の大将で、手がつけられない暴れん坊でした。

戊辰戦争では軍略家の才能を発揮して会津若松城を攻略。維新の元勲として、明治政府の参議をつとめました。

明治７（1874）年、高知にもどって立志社を創立。薩摩・長州の「専制政治」に反対して自由民権運動をおこしました。自由党総理として、国民の参政権確立、国会開設など、近代国家建設のためにつくした功績はばつぐんで、高知を代表する偉人のひとりです。

立志社跡

高知市中央公園の大丸寄りの片隅に「立志社跡」の碑があります。「青い海、青い空、ここに自由と若さがある」と刻まれています。

もうひとつの碑にきざまれた「自由は土佐の山間より」は植木枝盛の言葉で、自由民権発祥の地・土佐を高らかに宣言しています。

立志社は、ここを拠点にたくさんの民権結社をつくり、政談演説会を開き、雑誌や新聞を発行して、人々に自由と権利の大切さを説き、国会開設や憲法制定をめざして壮大な国民運動をくりひろげました。

当時の政府は、新聞紙条例や集会条例などの法律をつくって、自由民権運動にはげしい言論弾圧をおこない、多くの民権家たちが逮捕投獄されました。

けれども、民権家たちはこれに負けず、明治23年に国会が開設されるまで闘いつづけました。いまの私たちの自由や権利、日本の議会政治は、こうした先人たちの犠牲のうえになりたっています。

堀詰座跡

藩政時代の高知城下では、芝居興行は禁止され、芝居小屋もありませんでした。

明治になると、鏡川上流・上の新地に「広栄座」、下流・下の新地に「玉江座」という芝居小屋ができ、明治15（1882）年には堀詰に「堀詰座」が開業します。その後、広栄座が中島町に移って「高知座」となり、これらの芝居小屋では歌舞伎興行のほか、政治を論ずる演説会がさかんに開かれ、自由民権運動を支える舞台となりました。

庶民の娯楽は、明治後半から大正時代にかけて歌舞伎芝居から活動写真（無声映画）へ移っていきます。

ちなみに、下の新地「玉江座」は早くすたれ、その跡が戦前の得月楼本店になりました。

芸道90年。旧堀詰座の前に、実川八百五郎の胸像がたっています。八百五郎は、植木枝盛が指導した土佐の俳優団体「共正会」の役者でした。

回天社碑

回天社は、明治15（1882）年、帯屋町、本町など高知市中心部に住む青少年によってつくられていた逍遙社、海南社という二つの団体が合併してできた民権結社です。社員は約260人いました。

昭和12（1937）年に立てられた碑は戦災で失われ、昭和56（1981）年、帯屋町公園北側に再建されました。

高知の民権結社　民権結社は、自由民権運動をすすめるために、地域の青少年がつくった政治・学習団体です。高知では、藩政時代の「盛組」の伝統を受け継いでいます。初期には、高知市中に発陽社・嶽洋社・有信社・共行社・回天社・修立社、佐川南山社、宿毛合立社などがつくられ、民権運動の全盛期には、県下いたるところ数え切れないほどの結社がつくられました。

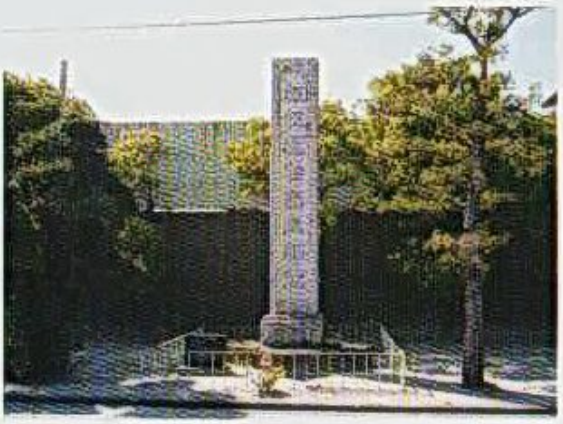
坂崎紫瀾邸跡

坂崎紫瀾は、本名を斌といい、明治の土佐を代表するジャーナリストのひとりです。自由民権思想をひろげるため多くの政治小説を発表し、大人気となった坂本龍馬の伝記小説『汗血千里駒』は、いまも愛される龍馬像の原型になりました。

たいへん機知に富んだ人で、言論弾圧で１年間政治演説禁止の命令をうけると、明治15（1882）年１月、馬鹿林鈍翁を名乗って「東洋一派民権講釈馬鹿林一座」を立ち上げて興行。これまた弾圧されて禁獄３ヶ月・罰金20円という刑を受けました。

その後、上京して東京の新聞社を渡り歩き、後半生は歴史家になって、『維新土佐勤王史』などの大著をのこしました。

板垣退助邸跡



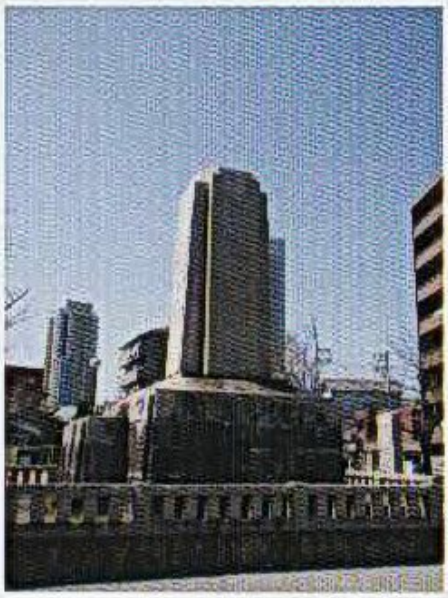
板垣退助が中島町の旧邸を引き払い、潮江新田の別邸に住所を定めたのは明治10（1877）年でした。この後、板垣の邸には、県内だけでなく県外からも、河野広中や頭山満など有名な民権家が訪れて、日本の進むべき道、国家のありようについてさかんに議論をくり広げました。

娘のころにこの家で女中奉公をしていた室戸市吉良川の近森菊代さんは、「板垣家の玄関には来客が叩く大きな鉦がつるしてあり、髪をのばした青年が下駄を鳴らしてよくやってきた。板垣さんはたいへん清潔好きで、半熟卵とアユの塩焼きが大好物。身を守るため、いつも枕もとに大小の刀とピストルをそろえて寝た」と語っています。

憲政之祖国碑

高知市東九反田公園の「憲政之祖国」碑は、立志社が最初に置かれ、自由民権運動がここから始まったことを記念して、昭和16（1941）年、高知の政治家や言論人の手で建てられました。

幕末、ここには土佐藩の殖産興業、富国強兵の拠点として、後藤象二郎によって「開成館」がつくられました。



明治３（1870）年、西郷隆盛・木戸孝允・大久保利通・板垣退助が会談して、「廃藩置県」実行のため薩長土からの御親兵献上を決めたのもこの場所です。

明治７（1874）年、板垣たちは旧開成館の建物を借り受け、片岡健吉を初代社長に立志社を置き、立志学舎をもうけて青少年の教育に力をそそぎました。

立志社は、天賦人権と四民平等を主張。人民の自修・自治・自助・自立と参政権の実現、国会開設・憲法制定をめざして自由民権運動をスタートさせました。

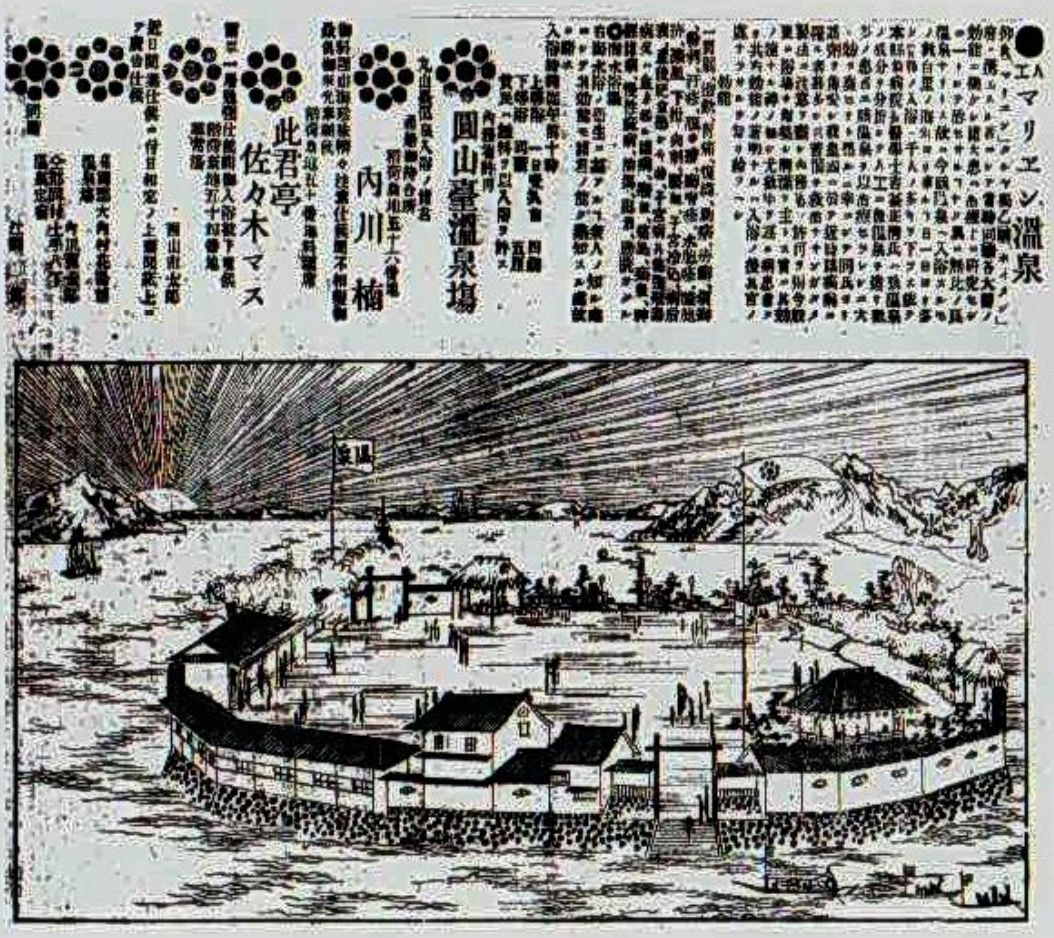
丸山台

鏡川河口に浮かぶ県立公園「丸山台」。もとは「丸山」と呼ばれる松林の山でした。

記録には、貞享4（1687）年の大洪水で崩れ、文化10（1813）年、潮江の新田開発で堤を築くため残土を取ったので平坦な島になったとあります。

明治16（1883）年、有名な料亭「此君亭」が80円で買いとり、周囲に石かけなどをついて「丸山台温泉場」を開業しました。ドイツのマリエン温泉と同じ成分の「温泉の素」を五台山の名水「独鈷水」で沸かし、潮湯とともに万病に効くと宣伝しました。

明治19年4月20日の『弥生新聞』にのっている丸山台温泉場の広告。周囲の建物は昭和21年の南海地震でこわれるまで残っていました。奥の方に「温泉」と書いた旗がひるがえっています。入浴料金は、上等浴4銭、下等浴5厘、貧民は無料とあります。



明治15（1882）年11月、自由党総理・板垣退助は、後藤象二郎とヨーロッパへ旅立ちました。洋行費が政府から出ているとの疑惑が表面化する中で、党内のはげしい反対をおし切っての洋行でした。

ヨーロッパ滞在中、板垣はフランスの文豪ユゴー（『レ・ミゼラブル』の作者・右の絵はユゴーと板垣）やイギリスの思想家スペンサーらと会談しました。

翌16年６月、板垣は７ヵ月の洋行を終えて帰国します。その２ヵ月後の８月28日、高知へ帰りました。

板垣を乗せた汽船がみえると、県下の民権各社は200余の舟を出して浦戸湾に出迎えました。（右の絵）

この時、板垣が上陸したのが、開業間もない丸山台温泉場だったのです。

丸山台には５千人をこえる自由党員が集まって足の踏み場もなく、板垣の帰国あいさつに拍手喝采は天地を震動させるほどだったと、当時の新聞が伝えています。

大正13年、「板垣総理帰朝紀念碑」がたてられました。（左写真）

丸山台へ行って

山本百合子
（横内小学校３年）

分からないことがたくさんあったけど、いたがきたいすけという人の名前と、死にそうになったとき、いたがきたいすけが「いたがき死すとも自由は死せず！」と言ったということをおぼえました。

丸山台に行くとき、船にものれたり、色いろと楽しかったです。どうぞうを見たりしながら説明をしてくれたから、おぼえた物が２つもありました。

これから歴史のべん強が始まるとき、お話してくれておぼえれたことが、やく立つといいな、と思います。

北光社船出の地

北光社をつくり、移民団をひきいい北海道に渡った坂本直寛は、坂本龍馬の甥です。立志学舎で学び、立志社を代表する思想家となって活躍しました。上の絵は、演説する坂本直寛です。熱心なキリスト教徒でした。お墓は、札幌にあります。

明治の後半、かつて自由民権運動でかつやくした人々の中から、新天地を求めて国の内外への移民事業にたずさわる人がでてきます。

北光社は、キリスト教精神にもとづき、民権家の坂本直寛、沢本楠弥などがつくった北海道移民のための会社です。

明治30年４月、110家族が農人町のこの場所を出発。船は豊後水道を抜けて日本海を北上し、宗谷岬をまわって網走に到着。移民団はさらに内陸部へ入り、政府から払い下げられたクンネップの広大な原野をきりひらき、いまの北海道北見市の基礎をつくりました。高知市と北見市が「姉妹都市」になっているのは、こうした歴史があるからです。

中江兆民生誕地

「東洋のルソー」中江兆民の本名は「篤介」と言います。弘化４（1847）年、城下山田町で足軽の長男に生まれました。幕末、長崎に留学してフランス学を修行。明治４（1871）年、岩倉具美の米欧使節団に随行して、念願のフランス留学を果たしました。

明治７（1874）年に帰国すると、東京で仏学塾を開き、塾生は２千人に及びました。

仏学塾が発行していた雑誌『政理叢談』に『民約訳解』を連載し、ルソーの思想を紹介して自由民権運動に大きな影響を与えました。

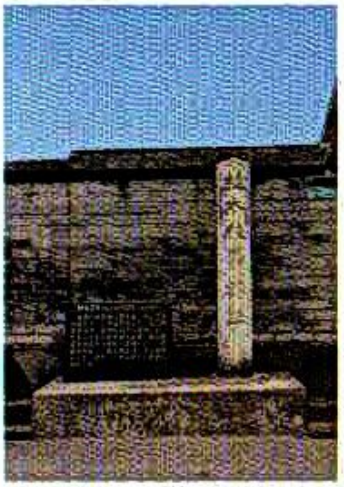
兆民は、『三酔人経綸問答』『平民のめざまし』など多くの著作を刊行。『自由新聞』『東雲新聞』などにもたくさんの論文を発表しました。

赤貧生活のなか、食道ガンで余命１年半を宣告され、『一年有半』、『続一年有半』を出版。明治34（1901）年、55歳の生涯をとじました。

植木枝盛旧邸跡

植木枝盛は、安政４（1857）年、高知城下中須賀で土佐藩中級武士の一人息子にうまれました。明治７（1874）年、板垣退助の立志社創立の演説を聞いて政治に目ざめ、自由民権運動に参加します。東京で勉強し、理論家として頭角をあらわしました。

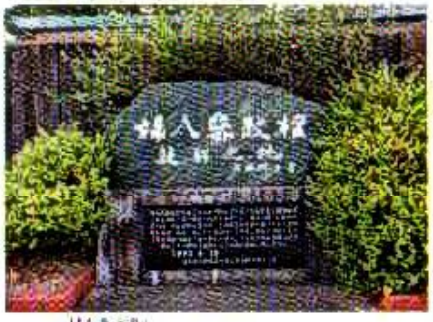
高知にもどると立志社にやとわれ、政談演説会や雑誌の発行など言論活動の中心的な役割をにないます。多くの政治文書のほか、『民権自由論』『無上政法論』『天賦人権弁』『一局議院論』などの著作を次々出版しました。



明治14（1881）年、桜馬場の自宅で書きあげた憲法草案（『東洋大日本国々憲案』）は、いまの日本国憲法に影響を与えたことで有名です。自由党解党後は、大変すぐれた男女平等・女性解放論をたくさん発表しています。

高知県会議員をつとめ、明治23（1890）年の第１回総選挙で衆議院議員に当選しましたが、在職中、病気のため35歳の若さで世を去りました

婦人参政権発祥之地



日本では、太平洋戦争が終わるまで女性に選挙権・被選挙権が与えられませんでした。

明治11（1878）年、唐人町に住む未亡人・楠瀬喜多は、「自分は納税の義務をはたしているのに、選挙権があたえられないのはおかしい」と男女同権を主張、高知県庁に質問書を出しました。これが日本で最初に女性みずから要求した女性参政権の主張です。

この時、楠瀬喜多の主張は実現されなかったのですが、２年後、上町と小高坂村の民権家たちが奮闘し、戸主であれば女性にも選挙権・被選挙権をみとめる規則ができました。これにより日本最初の女性参政権が実現したのです（４年後に政府の法律改正で廃止）。これを記念して高知市立第四小学校正門横に立てられたのが、「婦人参政権発祥之地」の碑です。

横には「嶽洋社跡」「河野敏鎌生誕地」碑もあります。

発陽社跡

発陽社は、明治10（1877）年に潮江の青年たちがつくった民権結社です。社員は約320人。『江南新誌』という雑誌を発行しました。初代社長は、立志社の憲法草案を書いた北川貞彦（弁護士）という人です。

発陽社は、唯一、県外からきた青年を受け入れた結社で、福島県三春から勉強にきた青年も入って行動を共にしました。

史跡めぐりに参加して

勇気ある行動

黒岩　虹花
（戸波小学校4年）

私が一番心に残ったことは、楠瀬喜多さんです。

昔、投票は男性しかできないと決められていましたが、楠瀬さんは女性にも投票をしてもらいたいという思いをもち、県に抗議しました。しかし、県はみとめてくれず、あきらめず内務省に行きました。

明治13年、日本で始めて女性参政権をみとめる法令ができました。

あきらめずに言いつづけて、本当に女性投票ができたことがすごいとおもいました。自分の思いを人につたえることが勇気ある行動だと思いました。

また参加して、高知の歴史や人物を知りたいです。

よくわからなかったけど

岩河　衣織
（朝倉第二小学校3年）

あまりよく分からなかった事ばかりでしたが、少しでも「じ書」などで調べてみようと思う気持ちが生まれました。

分からない事は、分かる人に聞いてみる、などの事がべん強になりました。

そのほかにも、あつい中、いろいろ教えてくださって、ありがとうございます。

ほかにも、ばすに乗ったり、船に乗ったりと、いろいろ楽しい事ばかりでした。本当にありがとうございます。少しでも、わたしの心を動かしてくれたと思います。

小中学生のための史跡めぐり

歩いてみよう！
自由民権の世界

参加者募集
(定員20名・先着順・参加費無料)

9月15日（日）

午前9時半、板垣退助銅像前に集合。

片岡健吉銅像→板垣退助生誕地→後藤象二郎生誕地→片岡健吉生誕地→高知座・堀詰座跡→立志社跡→回天社碑→板崎紫瀾住居跡を歩いてまわります。（正午解散）

9月22日（日）

午前10時半、弘化台集合。
船で鏡川河口の丸山台へ渡ります。ここは、ヨーロッパから帰った板垣退助が高知へ戻って最初に上陸した島だよ！
（正午解散・悪天候の時は、日程変更することがあります）

9月29日（日）

午前9時、自由民権記念館に集合。マイクロバスで高知市内の自由民権史跡をまわります。

板垣退助新田邸跡→憲政之礎国碑→北光社船出の地→中江兆民誕生地→植木枝盛邸跡→謙洋社碑・婦人参政権発祥の地→馬場辰猪誕生地→発陽社碑（正午解散）

講師　公文（くもん）　豪（ごう）（土佐史談会副会長）

主催　土佐史談会・高知市立自由民権記念館
（高知県教育員会郷土学習支援事業）

参加条件　3回とも参加できる人にかぎります。

その他　全員に保険をかけます（主催者負担）。親子での参加も可能です（ただし、親は1名にかぎります）。

参加ご希望の方は、右の参加申込書を切り取ってハガキに貼り、土佐史談会へ送って下さい。

小中学生のための史跡めぐり参加申込書

氏名	
住所	
学校名	
年齢	
電話	

〒780－0842　高知市追手筋2丁目1－1
オーテピア高知図書館内　土佐史談会
電話　088－854－5566

令和元年度参加者募集チラシ

歩いてみよう！自由民権の世界（無料）

２０２０年3月１日発行

著　　者　公　文　　豪

香南市野市町中ノ村５１９－１

発　行　所　土佐史談会

オーテピア高知図書館内

電話　０８８－８５４－５５６６

印刷・製本　ステップワン

香南市夜須町西山１３２５－１